

早送りで見る未来

莫大な量のデータを操る

🕒 所要時間 3分

PODCAST

00:00

00:00

🔊 Listen to: 早送りで見る未来

Listen to more Podcasts

あらゆる方向から情報やデータが押し寄せ、センサーやマシンの数が増えれば増えるほど、より多くのデータが簡単に収集されるようになるだろう。この状態に私たちはどう対処すればいいのだろうか。仕事や生活に役立つ方法でデータを分析、適用するためにこれらのバックシステムに依存するようになると、機械学習や人工知能は急速に進展し、もはや非現実世界のモノが生活必需品になる日も近いかもしれない。データとの新たなやりとりの形態も登場している。実際、ARとVRは新しいタイプの視覚的かつ没入型形態として、巨大なデータとやりとりする未来の重要な様式になると多くの人が予測している。「データ」は、もはや画面上の2D文字列の情報ではない。それはAI駆動の没入型体験を通して表現されるようになるだろう。

典型的なコンピュータインタフェース上でこのフォーマットを利用する主なメリットとしては、表示面がもはや壁面や平面に限られないことだ。例えば、仮想現実の中での「木」をリアルな世界と同じように3次元で見ることができ、リアルな世界は高さ、深さ、幅、距離があるため、情報がどこにあるかが重要になる。しかし、デジタルな空間座標はリアルな世界と似た仮想世界のどこにコンテンツが配置されるかで位置付けられるようになる。故にリアルな世界での「場」との関係を理解することが仮想世界でのアプリ、プログラム、ツールの場所を設定するのに役に立つことになる。

例えば、あなたの周りに円を描くように3次元に存在するデータ。手を伸ばせば必要なデータにアクセスできる未来のワンシーンを想像してみしてほしい。デスクトップで開いている10個のブラウザタブを行ったり来たりしながら、エクセルシートの巨大なデータや長文原稿を扱ったことがある人なら、こんなインターフェイスがあったらさぞや便利だろうと思うはずだ。この変化が空間の中で情報をどう表示し、操作するかを根本的に変えることになる。フラットスクリーンやブラウザウィンドウはもはや時代遅れになるだろう。頭や腕、身体を使って身振り手振りでデジタル世界の3次元の視覚化を探求する世界。チェアなどの家具は、実際の身体の動きを利用して仮想空間の中のモノの方向を変える操作レバーのように機能するものへ、数字はいじくれる現実に近いオブジェのようになっていくだろう。

あなたの周りに円を描くように3次元に存在するデータ。手を伸ばせば必要なデータにアクセスできる未来のワンシーンを想像してみしてほしい。

01 垣間見える未来

.....
ギグ・エコノミーでの活性剤

.....
莫大な量のデータを操る

.....
インテリジェント・イノベーション・ネットワーク
.....

健康的かつ持続可能なスペース
.....

部屋自体がチームのメンバー
.....

私たちが理解する「スペース」とは
.....

仮想ソーシャルスペース